



第90話 薬学会総会、懇親会に使われた会場

薬学雑誌 1910 年度(第 340 号) C1-42

先々月の本欄に示したが、明治 13 年 1 月、在京の 30 人が集まって毎月親睦会を開こうと決めたのは神田明神境内の開花楼。翌 14 年 1 月、会を学術的なものにし、会則、会費も決めようと話したのもここだ(これが年会の第 1 回となる)。明治 10 年創業、当時としては珍しい木造三階建てだった。海も見えたかもしれない。今日、神田明神から東に階段を下りると新開花という高級割烹がある。ご主人は開花楼から数えて 4 代目である。

明治 16 年総会の長蛇亭は、上野不忍池、弁天島の南岸にあった。維新前にはもっと酒亭があったらしいが、このころは取り払われて 1 軒だけ営業が許され、さまざまな会合に利用された。もちろん今はない。私事だが 30 年ほど昔、堂の西側の、傾いたような茶店で蓮の花を見ながらとろとろやあんみつを食べた。当時は 2 軒あったのだが、今は 1 軒だけある。

17 年、18 年の三河亭は神田三河町の三河屋であろうか。東京初の洋食屋として有名である。牛鍋屋は瞬く間に広がったが、ナイフとフォークを使ってコースに沿って料理を出すような店は、精養軒、三河屋、富士見軒あたりしかなかった

という。製薬学科本科生は全寮制で洋食を食べていたらしいから、こういうものに慣れていたのだろうか。三河屋は関東大震災で閉店した。

20~22 年の神田淡路町万代軒も西洋料理で有名だった。各種学会の会合に利用され、二階に玉突台があり、学士会の活動(親睦)はここから始まったとか。23 年の麹町区富士見軒も西洋料理で有名。この年の総会は薬学展覧会も併催され、文部大臣榎本武揚ら多数の来賓があった。日本数学会が 21 年に東大以外で初めて総会をしたのも富士見軒である。

25 年以降は総会が帝大薬学教室、懇親会が上野精養軒というパターンが多かった。ここは今も健在である。明治 5 年の築地精養軒ホテルから始まり、上野は公園ができた明治 9 年に支店として開業。海外出張や留学前の壮行会、帰朝したときの歓迎会などがよく開かれたので、薬学雑誌によく出てくる。築地は関東大震災で焼け、上野が本店になった。近年倒産した神田精養軒は、戦後ベーカリー部門が独立したものらしい。

小林 力

